

# 2015年(第14次)樹勢調査結果 速報

2015/9月 名勝小金井桜の会 事務局

初めに

本年も、平成14年(2002年)に第1回目の調査を実施して以来14回目になる、名勝小金井桜の毎木樹勢調査を実施しました。今回は予算の関係もあり、ここ数年ご協力をいただいていた東京樹木医プロジェクト(PJ)の先生方の参加は得ずに桜の会会員のみで、昨年と同様の調査方法で盛夏の7~8月にかけて、ブロック毎に実施しました。

詳細な調査データは近日中に会のホームページに掲載されますが、ここに概要を速報版として纏めましたので報告いたします。今年は2月に関野橋下流に18本の桜の会が育てたヤマザクラ苗木が植樹され、元気に育っている様子が確認されましたが、一方で新たに7本の枯死木が確認(+不明1本)され、昨年の15本より減少はしましたが桜並木全体の衰退は継続している状況です。

なお昨年もお知らせしましたように、調査の詳細な報告書については数年おき(3~5年毎)の間隔で発行することを基本方針としますので、本年はこの”速報”をもって調査報告といたします。

## 【1】調査日と調査メンバー

(アンダーラインはブロックリーダー)

第1ブロック： 7月29日	<u>石田精一</u> 、石田いく子、三宅 章
第2ブロック： 7月13日	<u>小迫悦子</u> 、小迫邦彦、遠藤百合子、竹前直子
第3ブロック： 7月28日	<u>植竹隆夫</u> 、岩間博昭、村山秀貴
第4ブロック： 8月22日	<u>小沼廣和</u> 、日並洋一、北村佳代子
第5ブロック： 7月21日	<u>田嶋清二</u> 、杉山利男、渡辺ふき子、日野絵里子
	合計 17名

【2】調査方法： 一昨年・昨年と同じ(東京樹木医PJ指定の調査票に基づき評点付して評価)

【3】調査風景とトピックス写真：



調査風景；第2ブロック



欠落した番号札(手製)  
を付ける



調査風景；第3ブロック

【4】調査結果の概要；

ブロック	2015年 総合評価ランク					計	2014年 総合評価ランク					計	本年枯死 (不明)	備考
	1	2	3	4	1		2	3	4					
	←状況が良い:状況が悪い⇒						←状況が良い:状況が悪い⇒							
1	0	1	101	10	112	0	7	98	10	115	No986、140=2 本(No186-A= 不明)			
2	16	47	83	3	149	15	45	86	3	149				
3	7	26	86	9	128	6	27	93	5	131	No306、308、 789=3本			
4	87	43	67	13	210	13	121	70	8	212	No362、402=2 本			
5	18	0	82	5	105	0	6	68	13	87		2015年2月 新 たに補植=18本		
合計	128	117	419	40	704	34	206	415	39	694	7本 (不明1本)	2014年は 枯死15本だった		
比率%	18.2	16.6	59.5	5.7	100	5	30	59	6	100				

2015.9.03 赤字部を訂正

詳細データは名勝小金井桜の会ホームページを参照ください。 URL : <http://koganeizakura.com>

【5】調査参加者の感想・コメント

\*第1ブロック ブロックリーダー 石田精一

第1ブロックの樹勢調査を27年7月29日に実施しました。今年は樹木医の先生の参加がなく、全くの素人のみでの調査になりました。また当日電機大学高校の生徒さん2名が同行取材ということで午前中の前半同行しました。

天候は曇りのち晴れ、午前2時間、午後2時間15分あまりで調査を終えることができました。調査に当たっては昨年の調査結果を参照しながら参加者の全員合意制で判定を行いました。

今年の特徴としてほとんど全樹の葉に食痕が認められたことと、逆にコスカシバとキノコの発生が昨年より少なかったように感じられました。

因みに2014年の食痕の発生樹は右岸・左岸合計で2樹でしたが今年はほとんど全樹で食痕が認められました。またコスカシバの発生樹率は2014年の49.6%に対して今年は26.8%でした。

今年 左岸では No.140 のヤマザクラ、右岸では No.986 のヤマザクラが枯死・伐採されまし

た。総合評価は昨年よりさらに悪化しています。とくに左岸は上水の中央部に繁茂している高木類に日照を遮られており、また土壌の固結、根系の伸長制限は著しく評価の悪化に影響しています。

桜樹の生育を阻害し、生育環境を悪化させている高木類の一刻も早い除去と、土壌環境を改善する対策が必要と感じられました。

### \*第2ブロックリーダー 小迫悦子

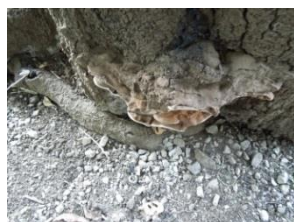
暑さ厳しい折から今回の調査は少しでも涼しいうちにと、8時に小金井橋に集合する。右岸より開始。小金井橋～茜屋橋は往復するだけで1時間はかかる。現存する第2ブロックの桜樹は149本なので1本1分でも所要時間が4時間弱はかかる。暑い中ゆえ心を引き締めて出発する。撮影係の邦彦さんがこまめに水分補給を差し入れてくれ、大いに助かった。

今年は会員のみで調査。少々心もとないが、昨年までのやり方で頑張ろうと出発する。例年の樹木医プロジェクトの調査項目(17項目)を調査するが、土壌の固結の項目は道具が無いので今回は昨年樹木医の先生が調べて下さった評価を踏襲した。根元や幹の貫入数値も同様。

今年は調査日が例年より早い為か、葉がレース状になったものが少ない。枯れた大枝の剪定もされたようで樹形がおかしくなっても、評価が高くなった桜樹が数本みられた。然し、ベッコウタケやコフキサリノコシカケの発生・増殖した桜樹が昨年より多く見られ心配だ。樹勢が衰えヒコバエの生えた樹が多いのも気になる。No,885(ヤマザクラ)がほぼ枯死状態で残念だ。

試みに2012年～2015年の第2ブロックの評価を表にしてみた。2012年には7本あった評価1が、2013年には2本、その2本は小金井橋竣工記念樹の2本なので2013年には多くの木の樹勢が衰えてしまったわけだ。14年、15年の評価1は柵内の新規幼木補植14本に依る。

	評価1	評価2	評価3	評価4	枯死本数	新規植樹	総本数
2012年	7本	57本	75本	3本	3本	0本	142本
2013年	2本	47本	89本	3本	3本	2本	141本
2014年	16本	44本	86本	3本	4本	14本	149本
2015年	16本	47本	83本	3本	0本	0本	149本



コフキサリノコシカケ



ベッコウタケ



KS17 蔦絡まる



No,885 ほぼ枯死



No.930 幹空洞

### \*第3ブロックリーダー 植竹隆夫

今年はブロック毎に期日を決めて実施することになり、第3ブロックは7月28日に実施しました。当ブロックは例年参加メンバーが少なく、今年は村山さんの応援を得て岩間さんと3人で調査しました。盛夏の真っ只中ということで天候を心配しましたが、当日は幸いなことに曇りでカンカン照りにならず、適宜水分補給をしながら午前9時～11時半過ぎまで約2時間半で、無事調査を終えました。

今年は樹木医の先生の参加がなく会員のみ、言わば素人集団での調査になりましたが、昨年の調査データをベースに参加者全員の意見を総合して評価を行いました。

今年の調査結果を概括すると下記のとおりで、相変わらず並木の衰退が進行し続けている状況が確認されました。 新たな枯死木:3本、総合評価ランク4(著しい生育不良):9本←昨年5本

なお今年は、昨年多く観察されたコスカシバの被害がかなり減少しているとの印象を受けました。 またここ数年新たに植樹された若木が(フェンス内ということもあり)夏草やツルに覆われている状況は依然として解消されておらず、植樹した若木の維持管理(若木に限ったことではないが特に)がキチンとなされねばなりません。

#### \*第4ブロックリーダー 小沼廣和

猛暑の中の樹勢調査となった。 永年の念願であった歩道橋が撤去され、8月1日に新たに架橋された「平右衛門橋」に集合し、新小金井橋～関野橋間の名勝小金井桜の現状を調査した。この間は“名勝小金井桜復活”のモデル区間と位置付けられ、フェンスの内側に3年かけて96本の後継樹が植栽された区間である。

復活のシンボリックな区間においても桜の管理者である東京都教育委員会の日常管理が我々の希望に沿った作業が行われず、夏草に覆われ、しかも植樹したヤマザクラ苗の成長に沿ったメンテナンスが行われず傷のついた苗木、葉の剪定が行われず未管理の苗木、十分な管理が行われず枯れてしまった苗木等、痛々しい姿を露呈していた。 また従来からの古木においては、キノコ類がはびこり名勝指定されている小金井桜とは言い難い姿で、この区間を復活のモデル区間と言っている東京都並びに小金井市の見識を疑う悲しい現状であった。

他の区間に“欠損箇所”に補植”と称して植えられた小金井桜の後継苗木についても同様な現状ではないかと推測され、郷土の大事な文化遺産としての小金井桜を次代に適切に継承して行く我々の願いは、前途多難であるというのが素直な感想であった。

全体の調査結果は昨年と同様であり、雑草刈りは5月、7月、9月、の年3回行うとともに、都水道局、都教育庁、小金井市が別々に実施しているのを一本化すべきである

#### \*第5ブロックリーダー 田嶋清二

苗木生産者の指導のもと樹勢調査を行いました。調査は下記の項目を調べ、この樹木は今どういう状態なのか、このままで良いのか、枯死に至るのか等について総合的に評価しました。

- ① 葉の量 . . . . . 多い 少ない 空が透けて見える
- ② 葉の状態 . . . . . 大きい 小さい 生気がある 萎れて勢いがない
- ③ 幹の状態 . . . . . 生活反応がある 表皮が剥がれ蟻等の虫に犯されている。  
内部は空洞化
- ④ 枯れ枝の状態 . . . . . 先端部分 幹に近い太い枝まで 複数の箇所で発生
- ⑤ 幹の空洞化 . . . . . 打音で判断 堅い詰まった音 軽い乾いた音
- ⑥ 樹形 . . . . . 雑木に被圧された結果変形 人の手により切断されて変形
- ⑦ カビ、キノコ、コケの発生
- ⑧ 害虫の被害、幹、葉

		評価3	評価4
関野橋～梶野橋	左岸	35本	4本
梶野橋下流	左岸	5本	なし
関野橋～梶野橋	右岸	42本	1本
計		82本	5本

以上